

# 新聞・雑誌から見る現代日本

しんぶん ざっし み げん だい にほん

## ◆ 第16回 ◆

だい かい

# 正社員へ道遠く

せいしゃいん みちとお

このコーナーでは、新聞・雑誌の記事を通して現代日本事情を紹介するとともに、日本語を教える先生方が、新聞・雑誌の記事などの生教材をどうやって教材化し、中・上級の日本語の授業にどう活用できるかを提案していきます。今回は「フリーター」に関する記事を中心に上げますが、実際の教室活動の流れにそって質問と記事を提示しました。

「読む前に」と<キーワード>の部分は、いきなり記事を読むのではなく、記事に関する背景知識を整理して、読む準備をすることを目的にしています。「読む前に」の質問は、学習者が話題に関してどんな情報やイメージを持っているかを引き出したり、記事の内容を予測したりすることで、記事を読む意欲を高めることを狙っています。「読んだ後で」の質問は、学習者が記事を読んで自分の頭の中に作り上げたイメージを表現させたり、記事への反応を他の学習者と交換させることを目的にしています。

### 読む前に

よ まえ

私が子どもの頃、父は勤めていた会社主催の旅行や忘年会などに必ず参加していました。またお花見や運動会なども会社主催で行われていたのを記憶しています。それは、日本型経営の特徴と言われる「終身雇用」(注1)や「年功序列」(注2)という形態と深く関係していると思います。つまり企業は新卒の社員を教育し企業人として一人前に育て勤務年数に応じて定年までの生活を保障する、その代わりに社員は企業に忠誠を尽くして働くという、会社と社員が運命共同体的な関係だったわけです。日本経済が右肩上がりの高度経済成長期はそうした関係も可能でしたが、1990年代に入ってバブル経済が崩壊すると企業業績が悪化し、倒産や大規模なリストラ、年功序列にとられない能力主義や成果主義の導入など、これまでのような雇用形態は維持できなくなってきました。今回はそのよう

な日本経済の曲がり角で急増している「フリーター」に焦点を当て、日本人の職業意識や雇用形態の変化を考えたいと思います。

<キーワード> フリーター、ライフスタイル、モラトリアム、正社員、非正規雇用

せいしゃいん ひせいき こやう

注1：慣行として、定年まで社員に給与を払い退職金を支給すること  
注2：慣行として、勤務年数に従って給与が上がり企業内での地位も上がること

質問1：キーワードに挙がっている言葉の意味を考えてください。

質問2：「終身雇用」「年功序列」の長所と短所を挙げてください。**読む前に**には直接の答えはありません。注から想像したり、調べたり、あるいは周りの人と話し合ったりして答えてみてください。

読売新聞別刷びーぶる2003年9月8日「特集 フリーター急増①」

『日本語教育通信』2004年1月「新聞・雑誌から見る現代日本」

第16回に掲載している記事は、著作権の関係で掲載ができません。

▲読売新聞別刷びーぶる 2003年9月8日

## 読んだ後で

質問3：フリーターという言葉はいつ生まれ、その後どのように意味が変わってきましたか。

質問4：フリーターの3つの類型とは何ですか。また、全体に占めるそれぞれの割合はどのようになっていますか。

3つの類型のうち、政府が「フリーター対策」の対象としているのは、どれだと思いますか。

質問5：記事には、1990年代以降フリーターが急増した理由は何だと述べられていますか。

質問6：フリーターと呼ばれる人たちは、アルバイトやパートとしての雇用契約を結んで働きます。アルバイトやパート

として働く場合は、正社員とどのように待遇が違うのでしょうか。Web-siteで調べたり、周りの日本人に聞いた

りして、仕事内容・昇進・職業訓練の機会・給与などの点から違いを考えてみてください。(参考：『平成15年国

民生活白書』<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h15/honbun/index.html>)

質問7：皆さんの国では「フリーター」とい

う働き方はごく普通のことかもしれ

ません。また、フリーターから正社

員になる場合も多いかもしれません。

日本では、なぜこの「フリーター急

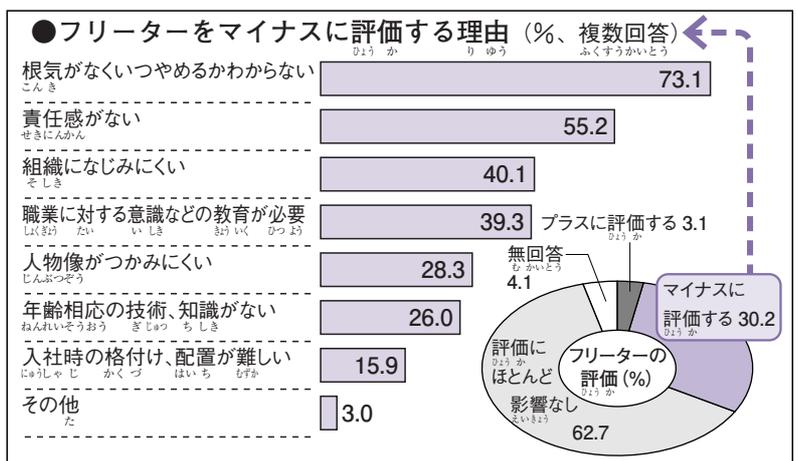
増」という現象が問題視され、なぜ

正社員になりにくいのでしょうか。

次のグラフを参考に企業の立場から

考え、さらに、それに対するあなた

の考えを述べてください。



(株) 労務行政「雇用管理の実態」(2001年)により作成

<解答例>

質問1：フリーター……freeとarbeiterを結びつけた和製語フリーアルバイターの略称だと言われているが、実は、「フリーター」に明確な定義はない。ただし、統計上は、

- 15～34歳の若年（ただし、学生と主婦除く）のうち、パート・アルバイト（派遣等を含む）及び働く意志のある無職の人。（出典：『平成15年国民生活白書』内閣府）
  - 年齢15～34歳、卒業者、女性については未婚者に限定し、さらに、(1)現在就業している者については勤め先における呼称が「アルバイト」又は「パート」である雇用者で、(2)現在無業の者については家事も通学もしておらず「アルバイト・パート」の仕事希望する者」（出典：『平成15年版労働経済の分析』厚生労働省）
- となっている。この記事は内閣府の統計によっている。

ライフスタイル…生活の仕方、生活様式（lifestyle）。

モラトリアム……心理学で、青年が社会に出るまでの準備期間のこと。責任ある社会人となるべき年齢になっても社会人とならない人をモラトリアム人間とも言う。

正社員……ある会社に継続的な雇用関係で直接採用され、フルタイムで働く正規雇用の人。

非正規雇用……「期限付きの契約によって雇用される」「勤務する会社から直接採用されていない」という条件の雇用形態のこと。つまり正社員ではない人。

質問2：

	長所	短所
終身雇用	失業する心配がないので、定年までの生活が安定している。	生活の安定と引き換えに会社への忠誠が求められるため、束縛感が強い。
年功序列	まじめに働けば給与や地位が自然と上がるので、将来設計が立てやすい。年齢による上下関係の意識が強い日本社会に適している。	勤務年数が少ないと能力があっても地位や給与が上がらないため勤労意欲が高まらない。

質問3：フリーターということばは1980年代の終わりに生まれた。そのころは多様な生き方を好んで選択する人のことを指していたが、1990年代以降は多様な働き方を自ら選んだ人ばかりでなく、「働く意志はあるけれど正社員として就業していない人」も含め、広くフリーターととらえるようになった。

質問4：①夢追い型（全体の1割）、②モラトリアム型（全体の5割）、③やむを得ず型（全体の4割）。国が「フリーター対策」の主な対象としているのは、②のモラトリアム型だと思われる。（理由は質問5～7から考えてください）

質問5：一つには1990年代以降の不景気で正社員の採用が少なくなったため（または、採用そのものが激減し、さらに企業側は正社員よりもコストがかからないパート・アルバイト・派遣など流動的な人材にシフトした）。もう一つは、若者は「しばらくフリーターをしてやりたいことを探してから正社員になればいい」と考え、実際にはフリーターから正社員になるのは難しいという現状や、正社員との給与格差などを十分認識しないのでフリーターという道を選択してしまうため。

質問6：（解答の参考例）

	仕事内容	昇進	職業訓練の機会	給与*
フリーター	補助業務	基本的にはない	基本的にはない	自活困難（年収100万円未満の人は56.2%）
正社員	管理業務も含む	あり	あり	自活可能（年収100万円未満の人は2.2%）

\*給与：平成15年国民生活白書のパート・アルバイトとして仕事をしている人の給与を使用した。

質問7：（解答の参考例）<企業の立場>フリーター経験者は、いつやめるかわからない、責任感がない、組織になじみにくいなどの心配がある上に、専門的知識や技能があまりないので即戦力として期待できない。正社員として採用するならば、即戦力として期待できる人材（ほかの会社の正社員が転職する場合）か、大学や高校を卒業したばかりの人を採用し、時間とお金をかけて長期的な訓練を行うことで人材育成をしたい。